

険しい山を越えようとも
荒々しい海を渡ろうとも
いつか来る輝かしい日のため
誇りを持って進んでいこう。

—卒業生メッセージ—

日々の努力は、
決して自分を
裏切らない。

公認会計士試験合格

小学生時代からの夢は、
プロ野球選手。

大学進学のこと本本当に真剣に考えていませんでした。それは、小学生時代から目指していたのは「プロ野球選手」だったからです。

小学生の時は、少年野球チーム「ジュニアコンドルズ」に所属。中学生になると硬式野球の「東大阪布施」でファーストを守っていました。そして、高校時代は、1年生から3年生までの3年間、野球部に所属していました。ですから、こと野球に関しては人以上に一生懸命頑張りましたが、勉強は全くしていませんでした。別に声を大にして言うことでもありませんが。

大阪経済法科大学を選んだのも、たまたま高校時代の野球部の先輩がいたからという理由でした。そして、当たり前のように入学すると野球部に入部しましたが、すぐに辞めてしまいました。やはり、自分の実力、能力の限界を突きつけられたからかも知れません。それと同時に、1年生の夏に自分自身の将来の進路を決定つける契機となるひとつの「出来事」があったからです。そのことが、私に「勉強」を目覚めさせたといつていいと思います。

「一番難しいような資格、
公認会計士にチャレンジ。」

大学1年生の夏のことです。暇を持て余していて、何となく友人と「エクステンションセンター」へ行きました。そこで「どんな資格を取ればよいのか」「どんな勉強

「野球漬け」の毎日を送り、一向に将来を見据えた活動を行ってこなかった私ですが、大学の1年生の夏のエクステンションセンターとの出会いが、その後の人生を決めたといつても決して過言ではありません。

現在は、受験時代にできなかったことをしたいと思っていますが、恐らく就職してからはほとんど時間がなくなってしまうので、思う存分遊びたいですね。

大学の4年間は、自由な時間が多いと思います。だからこそ、この4年間のいかに過ごすか（遊ぶか、勉強するか）によって、大きな「差」がつくと思います。最後に、先輩の皆さんには、時間の使い方と自身の将来について真剣に考えて学生生活を過ごしてほしいと思います。

「野球漬け」の毎日を送り、一向に将来を見据えた活動を行ってこなかった私ですが、大学の1年生の夏のエクステンションセンターとの出会いが、その後の人生を決めたといつても決して過言ではありません。

公認

足立 純也さん
(経済学部4年生)

強の仕方をすればよいのか」といった点をアドバイスされました。その時に、すぐく資格取得に興味を覚えたのです。そして「何か資格取得にチャレンジしてやろう」「どうせなら、一番難しいような資格がいいなあ」ということで、公認会計士を目指したわけです。野球部を退部することになったのも、資格取得のためでした。

目標が決まっただけでは、もう一直線。やはり、体育会系なんですかね。勉強を全くしていなかった私が、それ以来、勉強のみです。ですから、学生生活で最も苦しかったことをあげるといわれれば、即座に公認会計士の受験勉強をあげます。勉強時間を確保するためにあらゆる誘惑を断ち切り、また、アルバイトもできませんでしたから、金銭面でもかなり苦しい思いをしましたね。

目標達成に必要なのは努力。周りのサポートにも助けられました。

受験時代、自分で計画表を作成して勉強に取り組みようにしていました。やるべきことをあらかじめ明確にすることによって、スムーズに学習がはかどっていたと思います。計画表の作成は、ぜひお勧めします。

そして、1年生の冬には簿記2級の資格を取得。さらに、大学の授業と並行して専門学校「TAC」に通うようになりました。最初は「入門コース」で週3回の授業に参加し、1年後には「上級コース」に入り、ほぼ毎日のように通学し、合格を目指して、頑張り続けました。



目標達成のために、「TAC」の講師の方々と教材は大いに役立ったと思います。しかし、決め手となったのは、日々の努力。これにつづるのではないのでしょうか。それと、苦しい受験生活を切り抜けたのは、家族や受験仲間が存在が大きかったと思います。

大学生活の4年間は、
真剣に過ごすことが重要。

公認会計士試験に合格したからといって、すぐに公認会計士になれるわけではありません。まだまだ、通らねばならぬ数々の関門が待っています。

合格後は、近畿にある「実務補修所」に入所し、3年間で一定の単位の修得、かつ2年間の業務補助を経験した後、「修了考





学生時代のクラブ活動で、基礎体力を養成。

あまり明確な時期は覚えていませんが、中学生の時から、なんとなく公務員になりたいと思っていました。

小学生4年生の時に、友人に誘われて地元の少年サッカークラブ「ブルースカイ」に参加してからは、中学、高校時代とサッカー部に所属していました。高校では県大会（福井県）でベスト4まで進みました。

中学生の時から公務員を志望していたといいましたが、私の場合は、警察官か消防士を目指していました。公務員といっても

どちらも特殊な職業で、しかも体力のいる仕事です。そういう意味では、中学、高校と公務員に必要な体力づくりのために部活動に励んでいた、といえるかも知れません。

大阪経済法科大学に入学すると、それまでのサッカー生活から一転、何か違うスポーツにトライしたくなり、テニスサークルに

入りました。どちらにしろ「体力づくり」という点では共通していました。

消防士採用試験合格を目指し、必要と思う科目はすべて受講。

高校の担任の先生から、公務員を目指すなら法学部のある大学に進学する方が良いと薦められました。それで、全国の大学案内を片っ端から調べてみたんです。そうすると、毎年多くの公務員内定者を輩出しており、

公務員講座にも積極的な力を入れている大阪経済法科大学のことを知り、進学を決めました。

そして、入学後は、すぐにエクステンションセンターに「Sコース（特修講座）」の受講を申し込みました。1年生の時は、公務員基礎講座。2年生で公務員養成講座。3年生で警察・消防講座。そして、4年生になると警察・消防直前講座を、それぞれ受講しました。Sコースは5・6時限目に設定されているので、大学4年間は丸一日大学内で過ごすことが多かったと思います。私ほど「学内生活」が長かった学生はいないんじゃないでしょうか。

それと、公務員講座受講生に履修を推奨されていた

地域社会、住民から信頼される消防士に。

福井県嶺北消防組合職員採用試験合格

高橋 哲矢さん
(法学部4年生)

正課科目である「判断推理」「数的推理」、それに「文章理解」も大いに役立ちました。ただ、段々と難くなる法律の専門科目についていけるよう勉強するのが、正直辛かったですね。その辛さを克服できたからこそ、現在の自分があると思います。

消防士として働くことが、今からとても楽しみ。

出身地でもある、福井県嶺北消防組合の職員採用試験にチャレンジしました。しかし、誰もが消防士受験資格があるわけではありません。消防士は人を救助する仕事のため、身体的条件資格が必要とされます。男性であれば身長160cm以上、体重50kg以上、握力35kg以上。そして、視力は左右とも矯正視力で1.0以上。さらに職務遂行上、身体に支障がないこと、などが求められます。体力が必要だという理由もわかりただけだと思います。

9月に「第一次試験」があり、教養試験、適性試験そして作文試験が行われました。

10月の末に行われた「第二次試験」では、面接試験と身体・体力検査がありました。そして、11月の初めに合格発表があり、50名の受験者のうち、7名が合格し、その内の一人として採用されました。合格して、一番喜んでくれたのは、両親です。すぐに電話もありましたし、電報も届きました。

これからは、消防学校に入学し、消防活動に必要な国家資格を取得することになります。半年から1年ほどで消防学校を卒業し、地区の消防署に配属されるので、今からとてもワクワクしています。

消防士という職業に、責任と誇りを持って。

福井県というところは、自然災害が結構多いんです。洪水とか、土砂崩れとか。でも、そんな不安以上に、消防士としてのやりがいを感じています。消火活動というのは、地域社会にとって何よりも責任感のある仕事です。それだけに、毎日の活動を通じて、職場の人たちや地域に住

む人たちに信頼される消防士になりたいと思っています。これが、私の目標とする消防士の姿です。

それと、小学生の頃から打ち込んできたサッカーの技術を生かして、何か地域に貢献できる活動に取り組んでいきたいと思っています。例えば、子どもたちを集めてサッカーチームを指導したり、地元のスポーツクラブでアドバイスをしたり、自分の経験を生かした取り組みを真剣に考えているところです。

友人思いで、責任感のあるところが私の長所だと思っていますが、一方で、熱しやすく冷めやすいという短所があります。消防士として地域活動に従事する限りは、冷めることなく、熱意が途切れることなく、地域貢献活動に邁進していきたいと考えています。

私自身、「チャンスは1回しかない」という想いで常に心がけ、行動してきました。後輩の皆さんにも、そのことを強く言いたいですね。皆さんも、是非自分の夢に向かって頑張ってください。



将来は、独立して 税理士事務所を開業。



川崎和幸税理士事務所就職決定

亀村 由貴さん
(経済学部4年生)

振り返ると、もう少し力を抜いてもいいところがあったような気がします。
とにかく、音楽に終始していた高校時代だったと思います。

インターンシップを通じて、働きたいを実感。

漠然と公認会計士か税理士になりたい、と思っていました。でも、性格的に合うのは税理士の方だと思ひ、大学の2年生の春頃から簿記の専門学校に通い始めました。

3年生になって、就職課の方からインターンシップの情報を入手し、大阪府貝塚市にある税理士事務所に応募しました。インターンシップとは、現役の学生が実際の企業の中で一定の期間、研修生として働き、自分の将来に関連する業務を就業体験できる制度で、私にとっては将来の目標である税理士業務の実務を「疑似体験」できる絶好の機会でした。

先方の受け入れも決まり、夏休みの2週間、自宅のある大阪府高石市から通うことになりました。勤務時間は、朝の8時30分から午後5時まで。税理士の先生1名と事務の方が4名、総勢5名で構成されている税理士事務所でした。

幼少時代から高校までは、音楽活動に熱中。

中 高一貫の学校に通っていました。子供の頃から音楽に興味があったので、幼稚園、小学校とピアノを習っていました。中学、高校では軽音楽部に所属し、6年間、ドラムを担当していました。

軽音楽部の活動としては、年間に3大イベント(文化祭、クリスマスライブ、土曜観賞)があり、その中の一番の思い出は、

高校2年生の時の楽器会社主催の大会に参加したことです。私たちは、8人編成のバンドで参加したのですが、グランプリ大会まで駒を進めることができました。優勝は逃しましたが、強く印象に残っています。

当時、軽音楽部の部員は約100名。副部長を任されていたので、毎日が大変でした。ライブの段取りや後輩の指導、また大会の練習で、毎日走り回っていましたね。今



毎日の業務、仕事の手伝いはもちろんですが、社会人としてのマナーや仕事上欠かせない知識など、インターンシップ体験を通じて得たものはすごく大きかったと思います。「税理士として働きたい」、そんなモチベーションが二気に高まったきっかけになりました。また最終日には、送別会まで開いていただき、なんだか、実際のスタッフの一員になったような気がしました。

目標は30歳までに 税理士資格を取得。

9 月の初め頃、就職課の方から税理士事務所からの求人があるとの情報を教えていただきました。それを見ると、なんと私がインターンシップを体験した、税理士事務所でした。すぐに連絡を入れて、事務所を訪問し、アルバイトから始めてみないかという話になりました。現在は、月・水・金の週3回、アルバイトとして勤務しています。来年4月からは正社員として勤務する予定です。

目標である税理士になるには、国税審議

会の試験を受験し、合格しなければなりません。税理士試験は年に1回、8月に実施されますが、試験対象科目は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税又は酒税法、国税徴収法をはじめとする11科目。その中から必修科目2科目、選択必修科目1科目、選択科目2科目の合計5科目を受験し、合格すると、晴れて税理士になれるわけです。

私の場合、働きながら税理士を目指すわけですが、じっくりと実務経験を積みつつ、まず必修の2科目をクリアし、次に選択の3科目にチャレンジしていきたいと思っています。そして、30歳までには「税理士バッチ」をつけ、自分の事務所を持ち、今までお世話になった方々に、少しでも恩返しをしたいと思っています。

一日二日を大切に過ごし、 自分の夢を実現したい。

税 理士事務所でのアルバイトが、日常生活のウエイトを占めるようになってきました。実務の仕事

を覚えることで、毎日必死ですね。それ以外では、読書をしている時間が多いですね。多い時は、月に10冊くらい読んでいます。主に、推理小説が中心で、好きな作家は、伊坂幸太郎。

『ゴールデンスランバー』には、感銘を受けました。それと、実は大学1年生の頃から、

高校時代の音楽仲間と時々ライブハウスで演奏活動をしています。やはり8人編成のバンドなんですけど、メンバーは高校を卒業して以来、それぞれ進路が別々になったので、同じメンバーではもう一度ないのですが、できれば高校時代のバンドを復活し、思い切り演奏をしたいですね。やっぱり、音楽が好きなんです。

まだまだ目標に向かって模索中ですが、頑張る気持ちだけは誰にも負けないつもりです。自分の夢の実現に向けて、残りの大学生活を一日二日無駄にせず、過ごしていきたいと思っています。



ボイスカウト活動で出会った警察官に憧れて。

小 学生の頃に参加していたボイスカウトの活動で、警察官の方と一緒に募金活動をする機会がありました。どのような募金活動であったかは、忘れてしまいましたが、その時の活動を通して、警察官という職業に憧れを持ったのです。何と云うか、担当していただいた警察官の方が、とても優しく、とてもかっこ良く見えただすよ。その体験がきっかけで、自分も将来はこういう警察官になりたいという目標を持つようになった。

高校時代を振り返ってみると、やはり警察官になりたいという希望はありましたが、それに対して何か行動を起こすというわけでもなく、ただ毎日授業に出て、帰宅すると友人らと遊ぶ。そんな生活の繰り返しでした。

そんな惰性的な生活に変化が訪れたのは、高校3年生の時の進路相談でした。進学が、就職かでも悩んでいたのですが、担任の先生から、「警察官を目指すんだつたら、大学で法律を学んだらどうだ」と声をかけられ、大学進学を決意しました。

大学生活でいろんなことを経験し、たくさんのお金を吸収。

大 学で法律を学ぼうということで、まず法学部のある大学を探しました。いろんな大学を調べた結果、巡り会ったのが大阪経済法科大学でした。公務員試験対策にすぐく力を入れて取り組んでおり、ま

さにこの大学は自分にピッタリだと思い、入学を決めました。

ですから、警察官という目標に対して本格的に動き出したのは、大学に入学してからです。大学で法律の基礎を学び、苦手だったコミュニケーション能力を身につけるために飲食店でのアルバイトも始めました。接客業務の基本は、何よりもお客さまとのコミュニケーションです。そういう意味では、アルバイト経験で随分と鍛えられたと思いますね。

そして、3年生の冬に「公務員模試」を受験しました。一般知能、一般知識、そして論文が課題だったのですが、論文以外は平均



点以下の点数でした。すぐ落ち込みましたが、原因はある程度分かっていた。模試を受けてから基礎問題を中心に集中して勉強していたために、応用問題まで対応しきれなかったんだと思います。この結果を突きつけられた時は、さすがに警察官を諦めようと思った時期もあったのですが、家族から「本当に警察官になりたいか」と言われたら、何回でも挑戦したい。その一言で、警察官に合格するまで諦めずに挑戦しようと思った。

警察官採用試験に備え、基礎から応用まで幅広く学習。

模 試の結果から反省したのは、基礎問題の勉強を続けることはもちろんですが、さらに応用問題の勉強に取り組み、点数の底上げを図ることでした。

また、正課授業とともに、1年生から受講していた「Sコース(特修講座)」で、筆記試験対策から面接対策にいたるまで、実践的な手法で各試験対策を行いました。また、論文を練習する機会もあったので、警察官を目指す私にとって、大変役に立ちましたね。

大阪府民が安心して暮らせる「街づくり」に貢献したい。

大阪府警察官採用試験合格

西野 貴也さん
(法学部4年生)

警察官を志望される後輩諸君には、面接対策にも力を入れるようにとアドバイスしておきます。

想い、憧れた警察官のように、誰からも頼りにされる警察官に。

大 阪府警察官採用試験に無事合格することはできました。しかし、警察学校を卒業してから初めて、警察官と名乗

れると思っています。そのためにも、6ヶ月間の警察学校生活を乗り切るため、いまは「体力づくり」に積極的に取り組んでいるところです。主なトレーニング内容としては、「ランニング」「腕立て」「腹筋」そして「背筋」です。

もともと、日本という国は治安のいい国として有名でした。しかし、最近ではどうもあまり自慢できないような気がします。

警察官となつて着任すれば、防犯活動に力を入れ、犯罪の起こらない街をつくり、一人でも多くの大阪府民が安心して暮らせるようにしていきたい。それが、将来の私の夢であり、目標です。同時に、私が警察官を志望するきっかけとなった警察官のように、優しく、かっこ良く、それでいて誰からも頼りにされる存在になりたいと思います。

後輩の皆さんには、それぞれにいろんな夢、目標があると思います。大学生活でその夢や目標を実現できるよう、しっかり準備してください。そして、学生生活を悔いの残らないよう、目一杯楽しんでください。



希望進路に合わせた
計画的な学習を実践。

具 体的に就職活動をスタートしたのは、
3年生の10月頃です。もともと、公
務員であれば消防士、一般企業であれば証
券会社という具合に、将来の進路について
は2つの方向を思い描いていました。

なぜ、消防士と聞かれるのですが、レスキ
ュー隊の活動をよく見て、そのかつこ良さに

惹かれたところが大きいですね。非常に単
純な動機ですけど。そして、大学では3年
生から金融に関するゼミに所属し、会社法
を学んでいました。卒業論文のテーマは「株
券及び株主名簿」で、かなり、証券会社を
意識して勉強していました。
ですから、入学当初から大学の授業や講
座と並行して、家でも公務員試験の勉強を
コツコツと頑張っていました。とにかく、直

前まで公務員が証券会社か、どちらにする
か迷っていましたし、そのどちらでも対応で
きるように自分なりには一生懸命にやって
きたつもりです。

**インターンシップに参加し、
自分に合った職業を発見。**

確 か、10月の初めだったと思います。就
職課の紹介で、友人と2人でインタ
ンシップを体験しました。

資金を有効に
活用・運用し、
誰からも信頼される
ディーラーを目標に。

岡三証券株式会社就職決定

山岡 辰徳さん
(法学部4年生)

インターンシップ先は、日本
の金融商品取引所として東
京証券取引所、名古屋証券
取引所とともに、日本の「三
市場」の一つと言われている
大阪証券取引所です。2日
間のインターンシップ体験で
したが、証券会社を目指し
ていた私にとっては、非常に
意義ある体験になりました。
館内の見学や証券取引の様
子を見ることができ、さらに
いろんな知識を吸収するこ
とができました。

また、グループワークで行
われた2人1組の「経営ゲー
ム」では、ひとつの企業を立
ち上げ、事業内容を紹介し、
新商品開発などを株主に対
してプレゼンテーションする
というものでした。私のチー
ムは、「和菓子の会社」を想
定し、いろんな和菓子商品の



説明から新規の商品開発、その販売、将来
の方向性など、会社の現状から将来に対す
るプレゼンテーションを行い、すごくいい評
価をいただくことができました。

それ以来、急速に証券会社に対する興
味が強くなってきましたね。もちろん、もう
ひとつの目標である消防士の選択肢も残っ
てはいましたが、ただ、気持ちとしては証券
会社への就職というスタンスが確固たるも
のになっていました。

積極的な姿勢が、
自分の道を切り拓く。

証 券会社を中心に企業セミナーや会
社説明会などには、積極的に参加し
ました。

一昨年の12月頃に、岡三証券の学内説
明会があり、参加しました。その時に人事
担当者から、証券業界の現況や、その中で
の岡三証券の位置づけ、特色、魅力など、い
ろんな説明が行われたのですが、説明会終

了後に、「金融不安定の時
代といわれている中で、これ
からの証券会社はどうなる
んですか?」「岡三証券の
果たすべき役割とは何です
か?」など、自分が普段から
証券会社に抱いていた疑問
点を正直にぶつけてみまし
た。思い出してみると、質問
していたのはほとんど私ば
かりだったような気がしま
すが、それがかえて良かつ
たのかもしれない。人事担当者の方に覚
えていただき、結果としてそのことも内定
につながったひとつの要因になったのでは
ないかと思っています。

さらなるキャリアアップを実現し、
社会で活躍したい。

内 「証券会社モ
ード」に突入してい
ます。ニュースや新聞、
インターネットなど
で金融関係の情報を
を収集しては、経済
との関係などを分
析している毎日です。

これから正式に
社員として、また証
券マンとして仕事を
していくことになる
ので、日本証券協会

が認定する「二種外務員資格」を取得した
いと思っています。これは、金融商品取引業
者で外務員として登録を受けるためには、
必要不可欠な資格なんです。会社の方から
も入社前に取得しておいてほしいと言われ
ているので、今は合格に向け全力投球の日々
ですね。
そして、将来は会社の資金を活用し、自
ら運用に携わるディーラー(自己売買業務
担当者・証券会社自らが投資家として株
式などを売買する)として仕事に取り組ん
でいきたいと思っています。「岡三証券に山
岡あり!」。それぐらい評価される存在に
なりたいですね。

大学生を取り巻く就職事情は、本当に
大変厳しい状況だと思っています。焦る気持ち
もあると思いますが、悲観することなく、無
駄な時間を省きつつ、常にアグレッシブな気
持ちで、「就活」にトライしてください。そ
して、決して最後まで諦めないでください。

自分の将来像を描こう。



最後まで諦めないことが、
何よりも大切。

高 校時代は、それこそ勉強よりもアルバイトを優先するような毎日でした。夏休みに時給800円の肉体労働のアルバイト（倉庫業務でした）で、1ヶ月で20万円も稼いだことがあります。今思えば、いい思い出です。資金の使途は、バイクの購入にあてました。

大阪経済法科大学への入学動機は、資格取得にすぐ前向きに取り組んでいる学校だったことが主な理由です。大学生活を一言でいえば今が一番楽しい時期ですね。大学院受験が終わり、卒論のテーマである「成長理論」の研究や大学院での勉強に備えて、よりハイレベルな数学、統計学、計量経済学などを学内だけではなく、学外の先生方にも指導していただき、とても充実した毎日を送っています。

逆に、大学生活で苦しかったのは大学院の一次試験が終って、合格発表がされるまでの1週間ほどの期間でした。英語はそれなりに解答でき、ミクロ経済学はほぼ満点に近い点を取れた自信がありました。マクロ経済学は半分くらいしか答えられず「不合格なんじゃないか」と心配したからです。ただ、二次試験で専攻分野についての口頭試験があるため、合格の可能性が少しでも残っている以上、諦めるわけにはいきません。受けることができるかどうかわからない二次試験対策のため、分厚いテキストをノートにまとめ、式を一つひとつ証明していく作業に没頭しました。結果としては、その



時の勉強の成果が合格の決め手になったと思います。

2冊の本との出会いから、
将来の進路を決定。

大 学に入学してから2冊の本に出会いました。この影響が僕の将来への道を決定づけたといっているでしょう。ひとつは、アメリカの開発経済学者ジェフリー・サックスの「Common Wealth」、邦題名は「地球全体を幸福にする経済学」です。もうひとつは、イギリスの経済学者ポール・コリアーの「Bottom Billion」、邦題名は「最底辺の10億人」です。

実はこれらの書物を通じて「絶対的貧困」という言葉を知りました。絶対的貧困とは、1日1ドル以下で生活する人々をいいます。（ちなみに、2000年度版「人間開発白書」によると絶対的貧困層は1995年の10億人から12億人へ増加。世界人口の約半分にあたる30億人は1日2ドル未満で暮らしているそうです）

このことが契機となり、将来はアフリカ

などに出かけて行って、絶対的貧困の問題を解決できるような仕事に就きたいと思いました。

大学院進学は、
自己実現のための第一歩。

最 終目標は現地機関の一員として、絶対的貧困の撲滅に取り組むことですが、そのためのスケジュール（目標設定）を実は作成しました。

まず、国内の経済学研究科でもトップレベルの大阪大学大学院経済研究科へ進学↓国内の大学院で勉強し、経済学等の基礎知識をしっかりと修得しながら英語をマスターし、留学資格を取得↓国際機関で働く以上、英語圏の大学院を出たほうが有利かも知れないが時間的に無理↓国際機関の職員は、ほとんど最低でも修士号を持つっており、現場で指揮をとっている人はいない。経済学の博士号を持つている↓IMF、World Bank等が絶対的貧困の解決に向けたプロジェクトを進行中。まず、そこで経験を積む↓そして、最終的にはアフリカなどに存在する絶対的貧困の問題を解決できるような仕事に就きたいと考えています。

これが、僕自身の「将来カレンダー」です。大学院への進学はその第一歩です。

専門知識以外にも、
論理的思考力を修得。

ミ クロ経済学演習（朱教授）、応用ミクロ経済学演習（前鶴准教授）マクロ経済学演習、Business Studies（バルダス

教授）、経済統計学演習（深瀬教授）、大学院進学英語講座（義講師）の先生方にはとてもお世話になりました。これらの授業を受けていなければ、大学院合格は不可能だったと思います。

先生方には、それぞれの専門分野だけではなく、研究者としての考え方や研究の方法、また数理モデルを重視するあまり頭でっかちになりがちに私に、現実と理論のつながりや大切さを教えていただき、勉強する上でのモチベーション維持、向上にも繋がっており感謝しています。

自身の受験経験等を活かし、
勉強方法や心構えをアドバイス。

か つて塾で集団講義の講師をしていた経験があります。現在はそこで得たスキルを活かして来年以降大学院を目指す学生向けに勉強会という形で講義を行っています。「学生同士だからこそのこと」を意識しながら、勉強会の質を高めていくよう頑張っています。

大学院への進学を目指す人には「数学から逃げない」ことを強調したいですね。数学が苦手という人は、単に今まで数学から逃げてきただけだと思います。私自身、受験の半年前は微分もできませんでした。しかし、今では数学ができる人間になったことがその証明です。命がけで勉強するくらいの気概をもって進学を目指してください。

姫野 海里さん
（経済学部4年生）

大阪大学大学院経済学研究科合格



「絶対的貧困」の
解決を目指し、
世界で活躍できる人材に。



意義だったと思います。
大学の4年間は、ある意味で長期戦だと考えていました。そのため、その年度ごとに達成目標を立てて、クリアすることを目指しました。具体的には、1年生で「法学検定試験」や情報系の資格試験に合格すること。そして2年生のうちに行政書士試験の合格。法学検定では1年生で4級、2年生で3級に合格。情報系でも初級アドミニストラータの資格を取得するなど、なんとか自分に課したノルマは達成できたと思います。

佐藤教授の「刑法」の講義やゼミは、法科大学院入試を受験する上でとても効果的でした。佐藤教授は学生目線の方で、質問もやすく、とても気さくで親近感のある先生でした。さらに、試験を通じて、刑法の重要な論点について考える機会を与えていただきました。また、演習は刑法の事例問題に回答することを通じて刑法の理解を深めるという意味で、大変有意義だったと思います。



法科大学院入試は正直苦しかったです。幸い友人や先生方のおかげで何とか乗り切れたと思っています。本当に、周りの人たちに感謝、感謝です。

新司法試験合格を目指し、歩み続ける。

日常生活的にはサラリーマン時代の方が苦しかったので、学生生活が苦しいと感じたことはあまりありませんでした。しかし、法科大学院入試、とくに直前期は正直苦しかったですね。法科大学院入試には偏差値というものがありませんし、とにかく自分自身の勝負。あまり自信はなかったというのが本当の気持ちなんです。10月に合格通知が来た時は本当に嬉しかったですね。やっと苦しみから解放された、そんな感じがしました。

だからといって、これがゴールというわけでは、もちろんありません。今は次のプロセスである「新司法試験」に向けて勉強しています。新司法試験の受験は法科大学院入試よりも、はるかに難易度が高いので、ま

地域に密着した
弱者のための
弁護士として
活躍したい。

山口 秀哉さん
(法学部4年生)

同志社大学・立命館大学・岡山大学法科大学院合格

社会人時代の経験が、
弁護士を目指すきっかけに。

実 は僕の場合、中学校を卒業してから建設資材関連の商社です。そして、卒業後はアルバイトをしながら、通信制の高等学校に通っていたのです。毎日の仕事に追われ、その合間に勉強する、といった日常でした。もっとも、将来に明確な目標もありませんでしたし、将来を考えると不安なこともありました。ただ、生きているうちに何か自分が満足できる仕事をしたいと漠然と考えてはいました。

サラリーマン時代にはさまざまな経験をすることができました。友人の会社設立や取引先の倒産にも遭遇。そんな時、中小企業や会社起業等において、直面するさまざまな壁、いわゆるいろんな「法的障壁」のあることを知ったのです。

そこで、それを契機に中小企業を支援する法曹の必要性を痛感しました。そうして、法学部のある大学で、さらに中小企業の多い大阪の大学に進学し、弁護士になることで自分が満足できる仕事ができるのではないかと考えたのです。

計画的な目標設定で、 確実にステップアップ。

高 校時代はほとんど学校に行くことができませんでしたが、友人もあまりつくることのできませんでした。ですから、大学に入り、多くの友人とともに生活ができ、知らない世界を知ることができたのは、とても有

まだまだ頑張らねばならないことばかりです。

ですから、これからもチャレンジ、チャレンジの日々ですね。

目指す弁護士像は、 弱者のための弁護士。

現 在、八尾市民向
けに年に2回無

料の「市民法律相談会(法学部・法学会共催)」を弁護士の先生方に協力をいただきながら、大学の仲間たちと一緒に開催しています。これは2年生の時に友人と作ったサークルなのですが、夏は八尾市文化会館で行っています。今は年2回ですが、もっともって回数を増やしていきたいですね。

最初にも述べましたが、弁護士を目指したのは中小企業を支援する法曹の必要性を強く感じたからに他なりません。その意味からも、将来は地域に密着し、中小企業の設立や運営、さらに倒産からの再チャレンジのお手伝いができる、いわば「弱者」の立場に立つて活動できる弁護士として活躍したいと思っています。

後輩の皆さんには、何事も最後まで諦めずに頑張してほしいと思います。最後までやりきれば、必ずそれなりの結果はついてくるはずです。しかし、やりきることができなければ、絶対に結果はついてきませんので、一度決めたなら最後までやりきることを心がけてほしいと思います。

教員が推薦する

今、学生たちに 読んで欲しい本



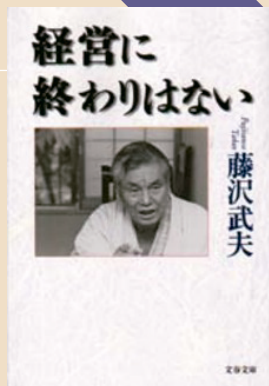
教養部
山路崇正 講師

学生の皆さんは藤沢武夫という人をご存じでしょうか。ほとんどの学生にとって初耳だと思います。「おれは金を持ってないけれど、金をつくるよ。金のほうを受け取って、いっしょにやってみよう。」藤沢武夫は、本田宗一郎と二人三脚で本田技研工業株式会社を世界のホンダへと成長させ、「技術の本田・経営の藤沢」と絶賛された副社長にして名経営者です。前述の言葉は、藤沢が本田と出会った頃のもので、小さな町工場時代に世界最高峰の二輪車レース「マン島T・Tレース」に参戦すると宣言した本田宗一郎の夢を現実のものにできたのは藤沢武夫の経営手腕があったからであるといわれています。

松明は自分の手で持て、たとえ小さい松明であろうと、ホンダは自分でつくった松明を自分の手で掲げて、前の人たちには関係なく好きな道を歩んでいく企業とする。藤沢武夫の経営哲学にして現在につづくホンダの挑戦精神を表現した言葉です。

町工場から世界のホンダへ、本田宗一郎と藤沢武夫に関するたくさんのエピソードが満載された2冊です。『経営に終わりはない』（文春文庫）は、藤沢武夫へのインタビューをまとめた文庫本で非常に読みやすい本となっています。本田宗一郎との出会いから別れまで、弱小町工場を大きくするための決断の数々、銀行や

推薦図書



藤沢武夫 (1998)
『経営に終わりはない』
文春文庫

藤沢武夫 (2009)
『松明は自分の手で』
PHP研究所



系列店、従業員との生々しいやりとりについて藤沢が語りかけるように文章が展開されます。

『松明は自分の手で』（PHP研究所）は、3章構成であり、第1章「本田宗一郎との出会い」では、本田との出会いから海外進出まで、第2章「スーパーカブ誕生そして世界へ」では世界のホンダとして確固たる地位を築くまでのホンダの歩みについて書かれています。また、第3章「学んだこと、思うこと」では、ホンダの社内広報誌における藤沢の言葉がコンパクトにまとめられています。この本は長らく絶版となっていたため一部の大学図書館でしか読むことができませんでしたが、2009年に復刊されたことで誰でも気軽に手にすることができるようになりました。

ここで紹介した『経営に終わりはない』と『松明は自分の手で』の2冊の本は、その内容に重なり合う部分も少なくないですが、いずれも藤沢武夫という名経営者の魅力が満載された良書であり、社会人になる前にぜひ読んで欲しいと思います。